

COP10 に行ってきました

COP10に合わせて開催された「生物多様性交流フェア」に出展した資料の一部を紹介しています。
この展示の期間は、2010年10月31日（日）～11月23日（火）です。

博物館は、COP10のテーマである、生物多様性の保全と持続可能な利用に、とても重要な役割を担っています。生物や環境に関する資料・情報を整理保管するとともに、調査研究を行い、県民、事業所、行政のみなさんに、さまざまな情報を提供しています。（自然系博物館のない都道府県も多くあります）生物多様性交流フェアでは、大型模型や実物資料を用い、このような博物館の機能、ひとはくや兵庫県先進的な取り組み、兵庫の生物多様性を、全国、そして世界の方々に、発信しました。

- 兵庫県は、「生物多様性ひょうご戦略」をはじめとする取り組みを、国際会議場内でのサイドイベントなどで、世界に発信しました。ひとはくも協力しました。
- COP10会議場に隣接した名古屋市白鳥公園で、「生物多様性交流フェア」が行われ、国内外から200を超える出展者が集いました。ひとはくは、2010年10月18日（月）から29日（金）、兵庫県自然環境課、（財）ひょうご環境創造協会、県立コウノトリの郷公園、APNセンターとの共同で、フェアに出展しました。
- テント2張のひとはくブースでは、標本資料（昆虫標本、キノコ標本：御影高校製作、菊炭）を用いて世界に誇る兵庫の里山を紹介し、さまざまな主体と連携したひとはくの活動（ひとはくいきものかわらばんなど）、生物多様性に関する兵庫県の取り組みの紹介をパネル展示しました。
- さらに、学校、企業、NPOなど9つの団体が、交代でひとはくブースの一部に出展され、それぞれの活動を紹介するとともに、ブースの雰囲気盛り上げてくださいました。（出展順に：県立三木山森林公園管理事務所、NPO法人人と自然の会、神戸市立六甲アイランド高等学校、県立御影高等学校、鳴く虫研究会「きんひばり」、NPO法人こども環境活動支援協会、大阪ガス（株）姫路製造所、植生研究グループ無名ゼミ、三田市立有馬富士自然学習センター）
- ひとはくブースは、実物標本や大型模型が大人気で、いつもたくさんの人で賑わい、出展期間中、約10,000人の利用者をお迎えしました。



ひとはくブースで談笑する岩槻邦男館長（中央）、堂本聡子 前千葉県知事（左）

